

町内会活動のデジタル化と 子ども主導による町内会活動

北海道釧路市 釧路昭和中央6丁目町内会

1. はじめに

釧路市街地北部の昭和地区に位置する当町内会は、大型ショッピングモールや医療福祉施設、公共施設など、さまざまな生活便利施設が充実しています。私たちが住んでいる昭和中央6丁目は住宅地に特化し、閑静でゆとりある低層住宅地として知られています。

このエリアは、釧路市内でも屈指の良好な住環境に恵まれており、小学生が134名、幼児が128名在籍しています。平均年齢は36・6歳で、子育て世代が中心となっている2014年に創設された若い町内会です。

2. 効果的な地域づくりを目指す町内会

新型コロナウイルスの影響が収束した今、町内会活動や地域活動は大きな見直しの局面に入りました。今後は、より強固で効果的な地域づくりを目指すための新しい方針をご紹介します。

◆回覧板の見直し

新たに「町内会公式LINE」を立ち上げました。このサービスの利用料金は、月額5,000円(税別)です。

回覧板は従来、情報の伝達に時間がかかり、1周するのに約3週間かかっていました。しかし、LINEの導入により、リアルタイムで地域情報を発信でき、回覧板からの感染リスクを気にせず済むようになりました。ただし、全住民がLINEに登録しているわけではないため、重要な情報やイベント案内について

は戸別、紙媒体での配布を行っています。

LINEは地域住民と1対1のメッセージ



家族で地域美化、清掃活動に参加



やり取りが可能で、例えば、「ゴミステーションに対する意見」や「公園に忘れ物がある」といったタイムリーな情報を活かして、より効果的な活動ができるようになりました。災害発生時にはキメ細かい情報のやり取りができることが期待されます。

◆町内会費のコンビ二払い化

当町内会の年会費は1ヶ月250円で、年額3,000円です。これまで輪番制の班長が分担で220世帯を戸別訪問し集金業務を担当していましたが、感染リスクを回避するために集金代行業者に委託し、コンビ二払いを導入しました。この新しいシステムにより、会計役員の領収書発行や帳簿記帳の手間がな



子どもの笑顔、溢れる。地域住民で設計した公園

くなり、入金確認もウェブで簡単に管理でき、役員や班長の手間が大幅に削減されました。

システム利用料は1世帯あたり450円(請求書印刷↓郵送込み)で、会員全世帯数を考慮すると10万円近くの費用がかかりますが、各家庭のライフスタイルに合わせて24時間いつでも支払いができるメリットは大きいです。

◆町内街区公園整備 全てオンラインで設計

2014年、町内会から市に子どもたちの安全な遊び場や地域住民の憩いと安らぎの場を確保するための公園造成の陳情を行い、2021年1月、町内の公園用空き地(0・23ha)に遊具施設の整備が決定され、市と住民の説明会が計画されました。



夏の朝、元気いっぱいのラジオ体操

時は、新型コロナウイルスの感染拡大の時期で、対面での集会が難しい状況。こうした中、『町内会公式LINE』を積極的に活用し、市から提供された遊具カタログや配置図を住民と共有。さらに、町内会主催で住民説明会を全5回、『You Tubeライブ配信』を通じて実施し、親子で参加しやすい環境を整えました。

『You Tubeライブ配信』費用は、ZOOMライブストリーミングを通じての配信であり、Proプラン(2000円/月)の契約が必要。

このオンライン上でのイベントでは、リアルタイムでコメントを受け付け、遊具の選定や配置、そして公園の愛称決定まで、子どもたちの意見を大いに反映させることができました。



夏の思い出、焼肉親睦会



夏の風物詩、初開催の盆踊り



子どもたちの手で企画運営した縁日

この取り組みにおいては、町内会役員と住民、市が円滑な連携を保ち、完全オンラインで設計した公園が構想1年で施工から完成まで実現しました。

公園の愛称は公募で『ゆうひ公園』と名付けられ、町内会の会員である幼稚園年長さんが命名しました。この名称は、命名者とお母さんが公園から親子で見た、釧路の世界三大夕日に感動した経験に基づき、多くの子どもたちからの得票を集めて選ばれました。

3. 子ども主導による町内会活動

当町内会は、小学生134名、幼児128名およびそれらの家族から構成されています。特に高学年になると、毎年子ども代表となるキーマンが現れ、建設的な意見が飛び出すことがあります。

6年生の男子から、「約束の時間を守れないから公園内の電柱に時計をつけて欲しい」という意見が出ました。この提案を受けて、筆者は早速、次年度の定期総会で議案に取り上げ設置できました。

土日には筆者自身も子どもを連れて公園へ散歩に行くと、町内会の人だと気づかれ、大勢の子どもたちに囲まれます。2〜3時間は解放されません。中学生や高校生も参加し、井戸端会議。

「なぜ筆者の近くに集まるのか？」と尋ねると、「相談所みたいなところだから」との返答があります。くだらない話の中にも、町内会でできることを子どもたちと共に模索し、都度、大人の役員に提案しています。子どもたちを通じて、地域の大人たちのネットワークが形成されつつあります。

4. 今後の課題と目標

今後の課題として、町内会の加入率向上が挙げられます。平成中盤以降、人口減少や担い手不足の影響で町内会は衰退の一途をたどっています。20代から30代の平成生まれの人たちは、小学生の頃に町内会の活動を経験せず、大人になり、「町内会ってどんな組織なのか」という認識を持っていない方もいます。逆に、当町内会の子どもたちは将来、自分たちが住む町に町内会がないことに驚く可能性もあります。

今後の目標は、地域の大人と子どもとの交流を増やし、意見を述べるキーマンとなる子どもを地域で育てることです。昭和中央6丁目から、児童会長や生徒会長、社会人となった際にもリーダー的存在になれる子どもたちを、地域全体で支援し育てていきたいと考えています。

(釧路昭和中央6丁目町内会)

総務部長 今野友貴